

バラ園の植栽変更について

濱谷修一・信太千帆

平成24年度から26年度にかけて、バラ園の植栽変更を行ったので報告する。

平成24年度(平成24年12月～平成25年2月)

J、L、Pゾーン

これら3つのゾーンには、広島にちなんだバラ、品種改良で重要な交配親となったバラ(マザーローズ)、日本で作出された重要な品種、バラの歴史上の重要な品種などが、各1～2株ずつ植栽されていた。当園のコレクションとしては重要な品種群であるが、品種特性にはばらつきがあり、栽培の難しい品種も多数含まれていて、同時に見栄え良く開花させるのが困難であった。特に、J、Lゾーンはバラ園内の中心的な位置となっており、修景的な美しさが強く要求される場所であるため、これらの株をいったん鉢に上げ、ハイブリッドティー系16品種、フロリバンダ系3品種を各品種8～10株ずつまとめて(‘アイスパーク’のみ10株ずつ2か所に分けて)植栽した。なお、本園では、現代バラ(モダンローズ)のコレクションはできるだけ新しい品種の収集を控え、1960年代以前に作出・登録されたものを充実させるようにしてきた経緯があるため、ここに植栽する品種はそのような条件に該当する品種とした。

また、バラは花の色や形などの見た目だけでなく、香りも重要な楽しみのポイントとなっている。そこで、Pゾーンを「香りのバラのコーナー」とし、香りが強いことで定評のある18品種を植栽した。さらに、Pゾーン以外に植栽されている株についても、香りが強い品種にはラベルに「香」の表示を加え、来園者に多くの品種の香りを楽しんでいただくための目印とした。

平成25年度(平成25年12月～平成26年2月)

N、T、Vゾーン

N、Tにはオールドローズ(アルバ、ブルボン、ケンティフォリア、ダマスク、ガリカ、モス等の系統)が植栽されていた。これらも本園のコレクションを特徴づける重要な品種群であるが、ハウスパイプを使ったジャングルジム様の支柱

を設置しており景観として美しくなく、特にTゾーンはバラ園から瀬戸内海を望む好位置でありながら支柱とバラ(一季咲きのために初夏以外は花が無い)が視界を遮り、残念な状態になっていた。一方で、前年度に鉢に掘り上げた広島にちなんだバラなどを地植えで観賞したいという要望は多くあった。

そこで、N、Tゾーンのオールドローズを鉢に掘り上げ、支柱を撤去した。Nゾーンは「広島にちなんだバラのコーナー」として、平成24年度に掘り上げた品種のうち、広島市が他の国内外の都市等との交流に伴って寄贈を受けた品種や、広島で作られた、あるいは広島にちなんだ名のついた品種等を38品種植栽した。

Tゾーンには、平成24年度に掘り上げた品種のうち、日本で作出された重要な品種やバラの歴史上の重要な品種を約20品種植栽した。これらのほとんどはハイブリッドティーまたはフロリバンダ系で、草丈を低めに仕立てることが容易であり、「瀬戸内海を望む景観」を損なわない植栽となった。

バラに関する講習会などにおいて、品種改良の歴史などを解説することが多く、本園で栽培している野生バラやオールドローズ、マザーローズ等を紹介することがしばしばあるが、これらを系統立てて観察できるコーナーが本園には設置されていなかった。Vゾーンは細長いエリアが緩やかな坂道(車いす用通路)に接しており、このようなコーナーを設置するのに適した形状をしている。Vゾーンにはチャイナ、ティー、ポリアンサ等の系統が植栽されていたが、これらを鉢に掘り上げた。そこに、ガリカ系、ダマスク系などの初期のオールドローズから、ハイブリッドティー系やシュラブ系などの現代バラに至る各系統の代表的な品種(マザーローズを含む)を約40品種、系統が登場した時代の順に配置し、主にヨーロッパで進んでいったバラの品種変遷の歴史を観察できるようにした。

平成26年度(平成26年6月～7月)

H、Kゾーン

ここまで述べてきた植栽変更により、バラ園の植栽はすっきりとし、かつ充実したものになったが、その一方で、ほとんどのオールドローズを鉢植えで管理する必要が発生した。開花し

た株については来園された方々が観賞できるように公開場所に展示したが、移動の労力が想像以上に大きく、また、鉢数が増えたことによる栽培場所の確保、灌水時間等の増大も、栽培管理をするうえで大きな問題となった。また、オールドローズの栽培状況を一年を通して観察したいという来園者の声の一部があったため、地植えで管理できる場所を探してみた。

Hゾーンは「花の進化園」のキク科植栽コーナーの一部で、野生ギクが植えられていた。この場所はバラ園と隣接しており、バラ園を観賞された方がその流れでたどり着く場所である。また、花の進化園の中でキク科の面積が群を抜いて広いため、ここにあった野生ギクをキク科植栽コーナーの別の場所に移動し、ケンティフォリア系、モス系をあわせて約30品種、ダマスク系を約10品種植栽した。

Kゾーンはバラ園に接しているながらデッドスペースのようになっていた場所である。ここにアルバ系を約10品種、ハイブリッド・ルゴサ系等を約10品種植栽した。

スケジュールの都合で植え付けが夏になり、決していいタイミングとは言えなかったが、根鉢をできるだけ崩さないように注意して植え付け、また、例年になく降水量の多い夏だったことも

あつてか、ほぼ問題なく活着している。なお、Kゾーンはスギの木の陰になって日当たりがかなり悪い場所があり、そこに植えている株はKゾーン内の日当たりのよい場所に植えている株と比べて生育が悪い印象がある。今後の状況を注意深く観察していきたい。

平成26年度（平成27年1月～2月）

I、Mゾーン

H、Kゾーンに植えた品種に引き続き、Iゾーンにブルボン系（約15品種）、チャイナ系（約15品種）、ガリカ系（約40品種）を、Mゾーンにティ系（約15品種）を定植した。

Iゾーンは、Hゾーンと同じく花の進化園のキク科植栽コーナーの一部であり主にダリアが植栽されていたが、園内の別の場所にダリアを植栽・展示する場所を確保し、移植した。

Mゾーンは、花の進化園のラン科のコーナーの一部であったが、ほとんどシランしか植栽されていない状況だったので、シランの面積を縮小し、オールドローズを植栽した。

本稿執筆時には、I、Mゾーンの生育状況はまだわかっていないが、状況を注意深く観察していきたい。

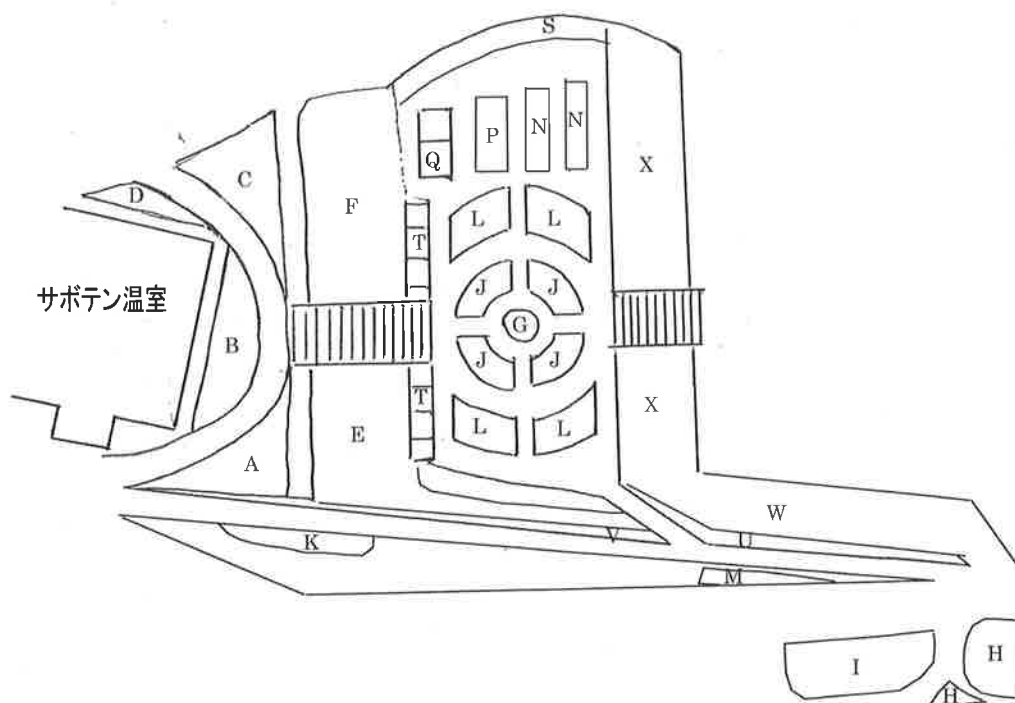


図. バラ園の配置図（アルファベットは本文の植栽ゾーンと一致する）